

#### 4) 城東南部地区

##### ① 地区の概況

城東南部地区は、区の中央東に位置しており、荒川や小名木川、仙台堀川、横十間川といった河川が地区を囲むように流れています。特に荒川の河川敷には広大な草地や水辺環境があり、上流域からのエコロジカルネットワークとして重要です。また、地区を縦横断する仙台堀川は樹林地や**草地のつながり**を形成しているだけでなく、日常の憩いの場である他、隣接する区民農園では農業を体験できます。

本地区では、荒川・砂町水辺公園【砂村】ポケットエコスペースにおける保全活動や小学校における砂村三寸ニンジン・砂村一本ネギの栽培等が行われています。

表 3-14 地区の概況：城東南部地区

項目	地区概況		
	地区別		
緑被率	区全域		
公園 (児童遊園を含む)	箇所数	16.16% (6地区中4番目)	21.01%
	面積	65か所 (21.8%)	298か所
ポケットエコスペース	R6年度時点	26.3ha (5.1%)	515.1ha
		12か所 (23.1%) (区立公園2か所(荒川・砂町水辺公園【砂村】、新砂のぞみ公園)、小学校9か所、幼稚園1か所)	52か所
みどり・生きもののエリア	4か所(5大エリア番号) 横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア(①)、荒川・砂町水辺公園河口エリア(②) 大島緑道公園/集合住宅エリア、仙台堀川公園/荒川・砂町水辺公園エリア		22か所
生きものの主要な生息・生育環境	陸域環境(樹林・草地)	南砂緑道公園・南砂住宅団地、南砂三丁目公園、北砂五丁目団地	
	陸水域複合環境(湿地・池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	ポケットエコスペース(湿地)、仙台堀川公園(湿地)、荒川・砂町水辺公園(荒川河川敷(緩傾斜護岸))	
	水域環境(河川・運河・海)	荒川、小名木川、仙台堀川、横十間川	
エコロジカルネットワーク (第2章第3節における解析結果)	樹林地ネットワーク	仙台堀川沿いの樹林地が大島緑道公園/集合住宅エリア～横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア間をつないでいるほか、横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア～荒川・砂町水辺公園河口エリアも樹林地がつながっています。	
	草地ネットワーク	荒川河川敷が上流域からの草地をつないでいるほか、仙台堀川沿いも草地がつながっています。	
	河川ネットワーク	地区を囲む小名木川と仙台堀川が荒川とつながっています。	
	淡水域ネットワーク	地区内に数多くポケットエコスペースが点在しており、これらが地区内だけでなく隣接地区とも網目状につながっています。	
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川・砂町水辺公園【砂村】、新砂のぞみ公園のポケットエコスペースでは、民間団体による希少種の保全・維持管理活動が行われています。</li> <li>砂町小学校には砂村三寸ニンジン、第五砂町小学校には砂村一本ネギの栽培等、生物多様性に基づく江東区の歴史・文化が受け継がれています。</li> <li>区内で唯一の「森のある小学校」である亀高小学校では、「わんぱくの森」にある果実の収穫や水田では田植え等の体験活動が行われています。</li> <li>砂町及び城東区民農園では、手軽に野菜・草花づくりを楽しめる貸し農園であり、収穫を通して生物多様性の恵みを味わう空間があります。</li> </ul>		

## ② 地区の課題

城東南部地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

城東南部地区は、他地区と比較して緑被地が少なく、また生物多様性の保全に特化した場所や空間が限定的である他、**広大な緑地を有する荒川**と地区北部の小名木川沿い、地区西部の横十間川沿いをつなぐ樹林地エコロジカルネットワークが十分に形成されていないこと、地区の中心部を縦横断する仙台堀川の水辺が直立護岸や暗渠で覆われており、エコトーンがほとんど見られないことが課題と言えます。

表 3-15 地区の課題：城東南部地区

項目	地区の課題
主要な生きものの生息・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きものの生息・生育地が荒川河川敷や集合住宅団地、仙台堀川公園等の区立公園のみと限定的です。</li> <li>・生物多様性の保全に特化した空間はポケットエコスペース等に限定されています。</li> <li>・区内部の河川の溶存酸素量は環境基準を下回っています。</li> </ul>
エコロジカルネットワーク ・エコトーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上流域からの連続性を持つ荒川と、地区内の小名木川沿い、横十間川沿いをつなぐ樹林地のエコロジカルネットワークが十分に形成されていません。</li> <li>・地区を縦横断する仙台堀川は水辺と緑地が住環境の中で連続していますが、水域が直立護岸や暗渠で形成されており、生きものが生息・生育できるエコトーンはあまり見られません。</li> </ul>

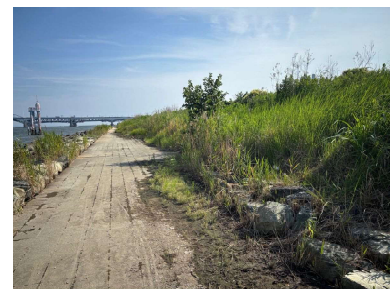
## ③ 地区の将来像

城東南部地区の概況や課題を踏まえた 2050 年の将来像を以下に示します。

### 2050 年将来像

荒川沿いの草地が保護され、また区民農園を中心に江戸東京野菜の栽培・利用や歴史・文化等の環境教育の機会が広がっています。

- ・上流域から連続する広大な荒川の緑地と地区内部を縦横に流れる仙台堀川の緑地を中心に、小名木川や横十間川の緑地もつながり、樹林地のエコロジカルネットワークが荒川から地区を囲むように形成しています。区立公園、小学校、集合住宅団地や商業施設等の民間緑地も含めた既存の緑地が維持、多自然化しています。
- ・仙台堀川、小名木川、横十間川は良好な水質が保たれ、水辺が身近にあります。
- ・荒川と仙台堀川のつながりでは、身近にある樹林～草地～水辺環境に親子で自然観察や虫採り、魚釣り等の体験が日常的に行われている他、区内外の誰でも気軽に写真投稿できる市民参加型調査が行われ、江東区のリアルタイムの生態系把握に貢献しています。
- ・区民農園では、農薬の少ない生物多様性に配慮した農法や江戸東京野菜の栽培が普及しており、生物多様性の重要性や区の歴史・文化も学べる場となっています。
- ・大型商業施設では、敷地内緑地の多自然化が進み、生物多様性向上に貢献できる仕組みがあります。
- ・ポケットエコスペースでは、持続的な体制のもと適切な維持管理や定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。また、荒川・砂町水辺公園【砂村】では上流から来る希少種の生息・生育地として保全されています。



荒川河川敷

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

城東南部地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-16 城東南部地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・生きものエリア	横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア	(深川北部地区に詳述)	
	荒川・砂町水辺公園河口エリア	(湾岸地区に詳述)	
	仙台堀川公園/荒川・砂町水辺公園エリア	・荒川上流から連続する広大な草地と地区内部を縦横に流れる仙台堀川の緑地を中心に、小名木川や横十間川の河川沿いに発達する緑地がつながり、荒川からのネットワークが地区を囲むように形成されています。	I
		・荒川の自然から住環境にある仙台堀川公園の身近な自然のつながりを感じながら、樹林～草地～水辺環境に親子で自然観察や虫採り、魚釣り等の体験が日常的に行われています。	II
大島緑道公園/集合住宅エリア	(城東北部地区に詳述)	III	
みどり・生きもの動脈・みち	河川・運河 (荒川・小名木川・横十間川・仙台堀川)	・上流と海のつながりを持つ荒川と隅田川をつなげる小名木川、そこから地区内を縦横に連絡する横十間川、仙台堀川が、横断工作物による移動の障害が軽減され、水生生物や水鳥の重要なネットワークとして機能しています。	I
		・仙台堀川、小名木川、横十間川の区内部の河川においては良好な水質が保たれており、住環境の中にも自然度の高い水辺環境が身近にあります。	II
		・豊かな水辺で釣りや観察等体験の場となっており、水辺の生きもの展示会等荒川にまつわるイベントが開かれています。	III
みどり・生きものスポット	ポケットエコスペース(新砂のぞみ公園、荒川・砂町水辺公園【砂村】、各小学校・幼稚園)	・区と民間団体、小学校・幼稚園が連携・協働し、持続的な体制のもと適切な維持管理、定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。	I
		・荒川上流から来る希少種の経路拠点として機能しています。	II
		・多様な生きものが見られ自然度の高い身近な空間として、子どもから大人まで楽しめる自然観察の場となっています。	III
	区民農園(城東区民農園、砂町区民農園)	・農業を減らした栽培等の生物多様性に配慮した農業体験が浸透しています。	II
		・江戸東京野菜の栽培が普及しており、種が保全されています。	III
	コミュニティガーデン	・農業体験や江戸東京野菜の栽培を通じて、生物多様性の重要性や江東区の歴史・文化も学べる場となっています。	II
		・在来種使用等の生物多様性に配慮したガーデン活動が広がり、区民だけでなく来訪者も楽しめる空間が街を彩っています。	III
江戸東京野菜栽培地(砂町・第五砂町小学校等)	・ガーデンを活用した環境教育や普及啓発が行われています。	II	
	・江戸東京野菜の栽培は親子や教師だけでなく、地域住民も身近に体験できるものとして浸透しています。	III	
		・江戸期から続く区独自の生物多様性の恵みとして、学校教育や来訪者への体験型の普及啓発に広く活用されています。	

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。



図 3-9 城東南部地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

5) 南部地区（南部地区西・南部地区東）

① 地区の概況

南部地区は、区の南西部に位置しており、東京湾と隅田川に挟まれ豊洲運河や東雲運河等様々な運河が縦横に流れています。また、まとまった都立公園や高層ビルの緑地、東西旧防波堤の緑地を背景に緑被率は全地区で2番目に高く、樹林地や草地のエコロジカルネットワークを形成しています。さらに、ポケットエコスペース等の湿地・池、都立水の広場公園の人工磯といった水域と陸域のエコトーンも一部で見られます。

NOVARE や高層マンションでは、民間企業が ABINC や JHEP といった緑地認証を取得しており、**汐浜・汐見運河/企業緑地エリア**では生物多様性に関する様々な取組があります。

表 3-17 地区の概況：南部地区

項目	地区概況		
	地区別		区全域
緑被率	21.55% (6地区中2番目)		21.01%
公園 (児童遊園を含む)	箇所数	53か所 (17.8%)	298か所
	面積	148.2ha (28.8%)	515.1ha
ポケットエコスペース	R6年度時点	10か所 (19.2%) (区立公園1か所(潮見さざなみ公園)、公共施設1か所(えこっくる江東)、 <b>小学校7か所、幼稚園1か所</b> )	52か所
<b>みどり・生きもの</b> <b>のエリア</b>	6か所(5大エリア番号) <b>汐浜・汐見運河/企業緑地エリア</b> 、辰巳の森海浜公園/辰巳の森緑道公園 <b>エリア</b> 、豊洲公園/春海橋公園/豊洲ぐるり公園 <b>エリア</b> 、有明テニスの森公園 <b>エリア</b> 、東京臨海広域防災公園 <b>エリア</b> 、シンボルプロムナード公園 <b>エリア</b>		22か所
生きものの主要な生息・生育環境	陸域環境(樹林・草地)	都立辰巳の森海浜公園・都立辰巳の森緑道公園、東西旧防波堤、各高層マンションの認証緑地等	
	陸水域複合環境(湿地・池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	ポケットエコスペース(湿地)、都立水の広場公園(磯)、豊洲ぐるり公園(緩傾斜護岸)、NOVARE(池)、武蔵野大学(池)等	
	水域環境(河川・運河・海)	東京湾、汐浜運河、汐見運河、豊洲運河、東雲運河、砂町運河等	
エコロジカルネットワーク (第2章第3節における解析結果)	<b>樹林地ネットワーク</b>	深川南部地区と地区内の各エリアの樹林地がマンション等緑地や東西旧防波堤を介してつながっています。	
	<b>草地ネットワーク</b>	都立公園や豊洲ぐるり公園の延長のある草地が地区内で網羅的につながっています。	
	<b>河川ネットワーク</b>	地区の北部は河川が網目状に、地区の南部は大きな運河が地区内を縦横に流れ、隅田川の河口と東京湾をつないでいます。	
	<b>淡水域ネットワーク</b>	<b>一部の小学校や幼稚園、武蔵野大学に湿地があるものの、地区の中では限定的であり、他地区と十分につながっていません。</b>	
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境学習情報館えこっくる江東では、環境学習や普及啓発の取組が行われています。</li> <li>都立辰巳の森緑道公園では、辰巳区民農園がある他、都立シンボルプロムナード公園ではナチュラルスティックガーデンが造られています。</li> <li>東陽町ぐりんたすでは「人・自然・まち」がつながる空間の創出や、武蔵野大学では造園会社と連携した環境学習や維持管理が行われています。</li> <li>NOVAREはABINC ADVANCE認証、高層マンションはJHEPやSEGES等の緑地認証を取得しています。</li> <li>NOVAREは様々な活動やイベントの場となっています。</li> </ul>		<p><b>温故創新の森 NOVARE</b></p> <p>【出典】清水建設株式会社ウェブサイト「テクノアイ 清水建設の技術「GX×NOVARE 資源循環・自然共生にむけた取り組み」」 (<a href="https://www.shimztechnews.com/solution/case/2023-03.html">https://www.shimztechnews.com/solution/case/2023-03.html</a>)</p>

## ② 地区の課題

南部地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

南部地区は、都立公園等のまとまった緑地が多くあるものの、ポケットエコスペースのような陸水複合環境や生物多様性の保全・向上を目指した空間が限定的である他、有明や青海のような一部の**港湾拠点**においては**緑地**が不足しています。

また、地区は運河が縦横に流れているものの、直立護岸で形成されている箇所が多くあり、磯や干潟等のエコトーンが限定的です。

表 3-18 地区の課題：南部地区

項目	地区の課題
主要な生きものの生息・生育環境	・本地区は緑被率が高く、まとまった緑地を有する都立公園が数多くありますが、ポケットエコスペースのような <b>淡水の湿地・池</b> や生物多様性の保全・向上を目指した空間が限定的です。
エコロジカルネットワーク ・エコトーン	・有明四丁目や青海一丁目等、一部の <b>港湾拠点</b> において樹林地が不足しており、樹林地エコロジカルネットワークが途切れている箇所があります。 ・ポケットエコスペースのような淡水湿地・池空間が有明や青海に少ないため、 <b>淡水域</b> エコロジカルネットワークが <b>十分に</b> 形成されていません。 ・地区は運河が縦横に流れているものの、直立護岸で形成されている箇所が多くあり、磯や干潟等のエコトーンが限定的です。

## ③ 地区の将来像

南部地区の概況や課題を踏まえた 2050 年の将来像を以下に示します。

## 2050 年将来像

臨海副都心に事業者や教育・研究機関、民間団体等の多様な主体が連携した豊かな水と緑の空間や臨海の生息空間が創出されています。

- ・まとまった緑地を有する都立公園を中心に高層マンションや商業施設、工業団地、倉庫等の民間緑地も含め既存の緑地が維持、多自然化しており、生物多様性保全の取組が認証取得や ESG 投資により施設や事業者の価値向上に寄与しています。
- ・東京港の埋立護岸においては、グリーンインフラ・ブルーインフラ（藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物）整備の観点により、海辺における人の利用と生きものの共、触れ合える空間の創出に**取り組んでいます**。
- ・**汐浜・汐見運河/企業緑地エリア**では、企業緑地を拠点とした生物多様性への配慮が浸透しています。また、駅前の立地や利便性を活かして、生物多様性に関する多角的な取組が区内外から集まる人達に向けて、多様な主体と連携して行われています。
- ・ポケットエコスペースやビオトープは、有明や青海にも新たに創出されており、持続的な体制のもと適切な維持管理や定期調査が行われ、湿地性の生息・生育環境が維持・向上しています。
- ・えこっくる江東では、周辺の事業者や民間団体、教育・研究機関等との連携により、様々な世代向けの最先端の環境学習や生物多様性に関する講座が開かれています。



環境学習情報館 えこっくる江東

【出典】江東区ウェブサイト  
「環境学習情報館 えこっくる江東」  
(<https://www.city.koto.lg.jp/380291/ekokuru/main.html>)

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

南部地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-19 南部地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・ 生きもの のエリア	汐浜・汐見運 河/企業緑地 エリア	・NOVARE や東陽ぐりんたす等を拠点に、東陽町駅から汐浜運河、潮見駅から汐見運河につながる良好な緑地が保たれています。	I
		・企業緑地と駅前の立地や利便性を活かして、生物多様性に関する多角的な取組が区内外から集まる多様な人たちに向け、多様な主体と連携して行われています。	III
	都立公園エ リア (都辰巳の 森緑道公園、 都立水の広 場公園 等)	・植栽の維持管理が定期的に行われています。 ・改修する際には生物多様性に配慮した取組が行われています。	I
		・桜並木や海辺の釣り場等、様々な自然観察や体験があります。 ・広大な緑地を活用した避難場所等防災拠点となっています。 ・水の広場公園等の人工磯では、江東区では貴重な磯環境の生きものを身近に見られる場所として、海域生態系や東京湾の特徴に関する環境教育が行われています。	II III
みどり・ 生きもの のみち	運河 (汐浜運河、 汐見運河、砂 町運河 等)	・臨海副都心周辺を縦横につなぐ水域のエコロジカルネットワークが水生生物や水鳥の生息環境として機能し、潮見さざなみ公園ポケットエコスペース等海辺の緑地を保全しながら、海域と陸域をつなぐ護岸が形成されています。	I
		・潮風の散歩道等日常の憩いの場や、水槽展示等の東陽・新砂地区ルネサンス協議会等のイベントの場となっています。	II
みどり・ 生きもの のスポッ ト	東西旧防波 堤	・東西旧防波堤は、生物多様性に配慮した維持管理が行われています。	I
	ポケットエ コスペース (潮見さざ なみ公園、え こっくる江 東、各小学 校・幼稚園)	・区と民間団体、小学校・幼稚園が連携・協働し、持続的な体制のもと適切な維持管理、定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。	I
		・多様な生きものが見られ自然度の高い身近な空間として、こどもから大人まで楽しめる自然観察の場となっています。	II
		・えこっくる江東では、様々な世代向けの最先端の環境学習や生物多様性に関する講座が開かれています。	III
	区民農園 (辰巳区民 農園)	・農薬を減らした栽培等の生物多様性に配慮した農業体験が浸透しています。	II
		・農業体験を通じて、生物多様性の重要性や江東区における農業の歴史、江戸東京野菜等の食文化も学べる場となっています。	III
コ ミ ュ ニ ティガーデ ン	・在来種使用等の生物多様性に配慮したガーデン活動が広がり、区民だけでなく来訪者も楽しめる空間が街を彩っています。	II	
	・ガーデンを活用した環境教育や普及啓発が行われています。	III	
大学や事業 者の緑地(武 蔵野大学、マ ン シ ョ ン 等)	・武蔵野大学では、生物多様性に配慮した緑地の維持管理や保全が行われています。	I	
	・武蔵野大学では学生に向けた環境教育や江東区の生物多様性を取り扱った研究が行われています。また、高層マンションでは敷地内緑地を活用して住民に向けた普及啓発が行われています。	III	

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。



図 3-10 南部地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

6) 湾岸地区

① 地区の概況

湾岸地区は、区の南東部に位置しており、東京湾と荒川に挟まれ砂町運河や砂町南運河等で囲まれている他、新木場には環境省のかおり風景 100 選にも選定された貯木場があります。都立海の森公園等のまとまった緑地を有する都立公園を中心として南北の樹林地・草地のエコロジカルネットワークを形成しています。また、区唯一の干潟である新砂干潟や都立若洲海浜公園の人工磯等、海と陸のエコトーンも見られます。新砂干潟では、干潟環境の生態系保全のため、民間団体によるモニタリングや自然観察会、国・都・区も連携したごみ清掃が行われています。

表 3-20 地区の概況：湾岸地区

項目	地区概況		
	地区別		区全域
緑被率	26.67% (6地区中1番目)		21.01%
公園 (児童遊園を含む)	箇所数	16か所 (5.4%)	298か所
	面積	227.5ha (44.2%)	515.1ha
ポケットエコスペース	1か所 (1.9%) (区立公園1か所(荒川・砂町水辺公園【下流】))		52か所
みどり・生きもののエリア	6か所(5大エリア番号) 荒川・砂町水辺公園河口エリア(②)、若洲海浜公園/若洲公園エリア(⑤)、新木場緑道公園/砂町南運河エリア、暁心頭公園エリア、夢の島公園/夢の島緑道公園エリア、海の森公園エリア		22か所
生きものの主要な生息・生育環境	陸域環境(樹林・草地)	都立夢の島公園、都立夢の島緑道公園、若洲公園、若洲ゴルフリンクス、青海中央心頭公園等	
	陸水域複合環境(湿地・池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	ポケットエコスペース、新砂干潟、砂町水再生センター、荒川・砂町水辺公園、都立新木場緑道公園、都立若洲海浜公園、都立海の森公園等	
	水域環境(河川・運河・海)	東京湾、砂町運河、砂町南運河、曙運河、第一・第二貯木場、新砂貯木場等	
エコロジカルネットワーク (第2章第3節における解析結果)	樹林地ネットワーク	樹林地及び草地は、荒川・砂町水辺公園河口エリアから若洲海浜公園/若洲公園エリアの南北方向、都立新木場緑道公園から都立辰巳の森緑道公園の東西方向にそれぞれつながっています。	
	草地ネットワーク		
	河川ネットワーク	地区の北部は大きな運河が地区内を縦横に流れ、荒川の河口と東京湾をつないでいます。	
	淡水域ネットワーク	砂町水再生センターや都立海の森公園、荒川・砂町水辺公園等が独立しており、地区内外で十分につながっていません。	
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新砂干潟は、国土交通省が干潟再生事業により整備した人工干潟であり、干潟環境の生態系保全のため、民間団体によるモニタリングや自然観察会、国・都・区も連携したごみ清掃が行われています。</li> <li>・都立海の森公園は、約60haと江東区で最も大きい樹林地です。「資源循環」と「都民協働」をコンセプトに、東京都がごみ埋立地を整備した公園であり、都民や企業、NPOとの協働により約24万本が植樹されました。</li> <li>・都立若洲海浜公園では、釣り用に整備された人工磯や防波堤があります。</li> </ul>		
			都立海の森公園 【出典】海の森公園ウェブサイト「公園概要」 ( <a href="https://uminomori-park.com/about/">https://uminomori-park.com/about/</a> )

## ② 地区の課題

湾岸地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

湾岸地区は、都立海の森公園をはじめとしてまとまった緑地が多くあるものの、ポケットエコスペースのような淡水湿地や生物多様性の保全・向上を目指した空間が限定的である他、有明や青海の一部の**港湾拠点**においては**緑地**が不足しています。

また、新砂干潟や**暁心頭公園エリア**等、荒川や船舶から外来種が侵入する入口となっており、ナガエツルノゲイトウ（新砂干潟）やヒアリ（**暁心頭公園エリア**）等特定外来生物が確認されています。

表 3-21 地区の課題：湾岸地区

項目	地区の課題
主要な生きものの生息・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地区は緑被率が全地区で最も高く、まとまった緑地を有する都立公園がありますが、ポケットエコスペースが1か所のみであり、淡水の湿地・池環境や生物多様性の保全・向上を目指した空間が限定的です。</li> <li>・荒川との連続性を有する新砂干潟や港湾拠点となっている<b>暁心頭公園エリア</b>は河川や船舶を経由して外来種が侵入する玄関口となっており、ナガエツルノゲイトウ（新砂干潟）やヒアリ（<b>暁心頭公園エリア</b>）等、特定外来生物が確認されています。</li> <li>・有明四丁目や青海三・四丁目、若洲一丁目等、物流や倉庫等港湾拠点では、緑被地がほとんどありません。</li> </ul>
エコロジカルネットワーク・エコトーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都立海の森公園は広大な緑地を有していますが、若洲・青海・有明と海で隔たっており、エコロジカルネットワークが十分に形成されていません。</li> <li>・ポケットエコスペースのような淡水湿地・池空間がほとんどないため、淡水域エコロジカルネットワークが十分に形成されていません。</li> </ul>

## ③ 地区の将来像

湾岸地区の概況や課題を踏まえた 2050 年の将来像を以下に示します。

## 2050 年将来像

区内唯一の新砂干潟が持続的に広がり、また若洲公園等のみどり・生きものの拠点となるまとまった樹林地が創出されています。

- ・まとまった緑地を有する都立公園を中心に、倉庫や物流施設、工業団地、ゴルフ場等の民間緑地も含め、既存の緑地が維持、多自然化しています。
- ・東京港の埋立護岸においては、グリーン・ブルーインフラ整備の観点により、改修による水辺空間のグリーン化・生物共生化に**取り組んでいます**。
- ・ポケットエコスペースやビオトープは有明や青海、若洲にも創出されています。
- ・**荒川・砂町水辺公園河口エリア**では、国・都・区・民間団体が連携して希少な干潟・湿地の保全や維持管理、調査が継続して行われており、自然観察や環境教育に広く活用されています。また、新砂二・三丁目地区では公園・緑道等整備で生物多様性に配慮されています。
- ・若洲公園では、都立若洲海浜公園との連続性を活かし、生物多様性に配慮した維持管理やゾーニング、体験型環境教育が行われています。
- ・**暁心頭公園エリア**では、船舶等からの外来生物侵入に対する水際対策が強化され特定外来生物は確認されておらず、都立海の森公園とのエコロジカルネットワークを形成しています。



新砂干潟

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

湾岸地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-22 湾岸地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・ 生きもの のエリア	【5大エリア ②】 荒川・砂町水 辺公園河口エ リア (砂町水再生 センター、新 砂干潟、荒川・ 砂町水辺公園 【下流】等)	・国・都・区・民間団体等が連携した新砂干潟の維持管理や調査が継続して行われており、希少な干潟環境や湿地環境の生態系が保全され、拡大しています。	I
		・新砂二・三丁目地区では公園・緑道等整備で生きものと触れ合える生物多様性に配慮した場が創出されています。	II
		・江戸期には当たり前にあった干潟環境や荒川を通じて流れる河川・海洋ごみ等を題材とした環境教育が行われています。	III
	【5大エリア ⑤】 若洲海浜公園・若洲公園 エリア、若洲 ゴルフリンク ス	・公園やゴルフ場のまとまった樹林地や草地では生物多様性に配慮した維持管理が行われている他、人工磯から草地、樹林地にかけて海辺の生きものの生息・生育地が保全されています。	I
		・海釣り施設やバーベキュー、ドッグサイト、キャンプ等、海辺～樹林地の環境を活かした自然体験の場となっています。	II
		・様々な海鳥や草地昆虫類が見られるゴルフ場となっています。 ・ゼロカーボンを題材とした講座や発電実験等の体験型イベントや江東区海辺環境に関する環境教育が行われています。	III
	新木場緑道公園/砂町南運河 エリア (都立新木場 緑道公園、貯 木場等)	・南北のネットワークを維持する生物多様性に配慮された緑地や浅場を生かした海辺のエコトーンが保全されています。	I
		・貯木場は「木の街・新木場」として区内外に認知されており、江東区の木材の歴史や生態系の恵みに関する環境教育が行われています。	III
	暁ふ頭公園エ リア (暁ふ頭公園、青海南ふ 頭公園等)	・都立海の森公園へとつながる緑地ネットワークが充実しています。	I
		・港湾から侵入する特定外来生物の水際対策が実施されており、行政と事業者が連携した外来種対策が行われています。 ・日常的な自然観察や散策の場となっています。	II
	夢の島公園・ 夢の島緑道公 園エリア	・植栽種の維持管理が定期的に行われています。	I
		・自然の中でスポーツが行える場として認知されています。	II
		・夢の島熱帯植物館では区と連携し体験型環境教育があります。	III
	海の森公園エ リア	・広大な樹林地・草地が東京湾や周辺区と江東区をつなぐ広域的な拠点であり、保全活動が行われています。	I
・森林体験ツアーや生きもの採集体験が行われています。		II	
・ごみ問題や埋立地の生態系創出の取組に関する普及啓発や育樹体験等区民に向けた環境教育があります。		III	
みどり・ 生きもの のみち	運河（砂町運河、砂町南運河、曙運河等）	・水生生物や水鳥のネットワークとして機能し、海辺の緑を保全しながら、海域と陸域をつなぐ護岸が形成されています。	I
みどり・ 生きもの のスポッ ト	ポケットエコ スペース（今 後新規創出箇 所）	・事業者の共同出資で有明や青海、若洲に新たなポケットエコスペースやビオトープが創出され、民間団体等との連携で保全されています。	I
		・多様な主体が連携した環境教育に活用されています。	III
	区民農園（夢 の島区民農 園）	・農業を減らした栽培等の生物多様性に配慮した農業体験が浸透しています。	II
		・農業体験を通じて、生物多様性の重要性や江東区における農業の歴史、江戸東京野菜等の文化も学べる場となっています。	III

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。

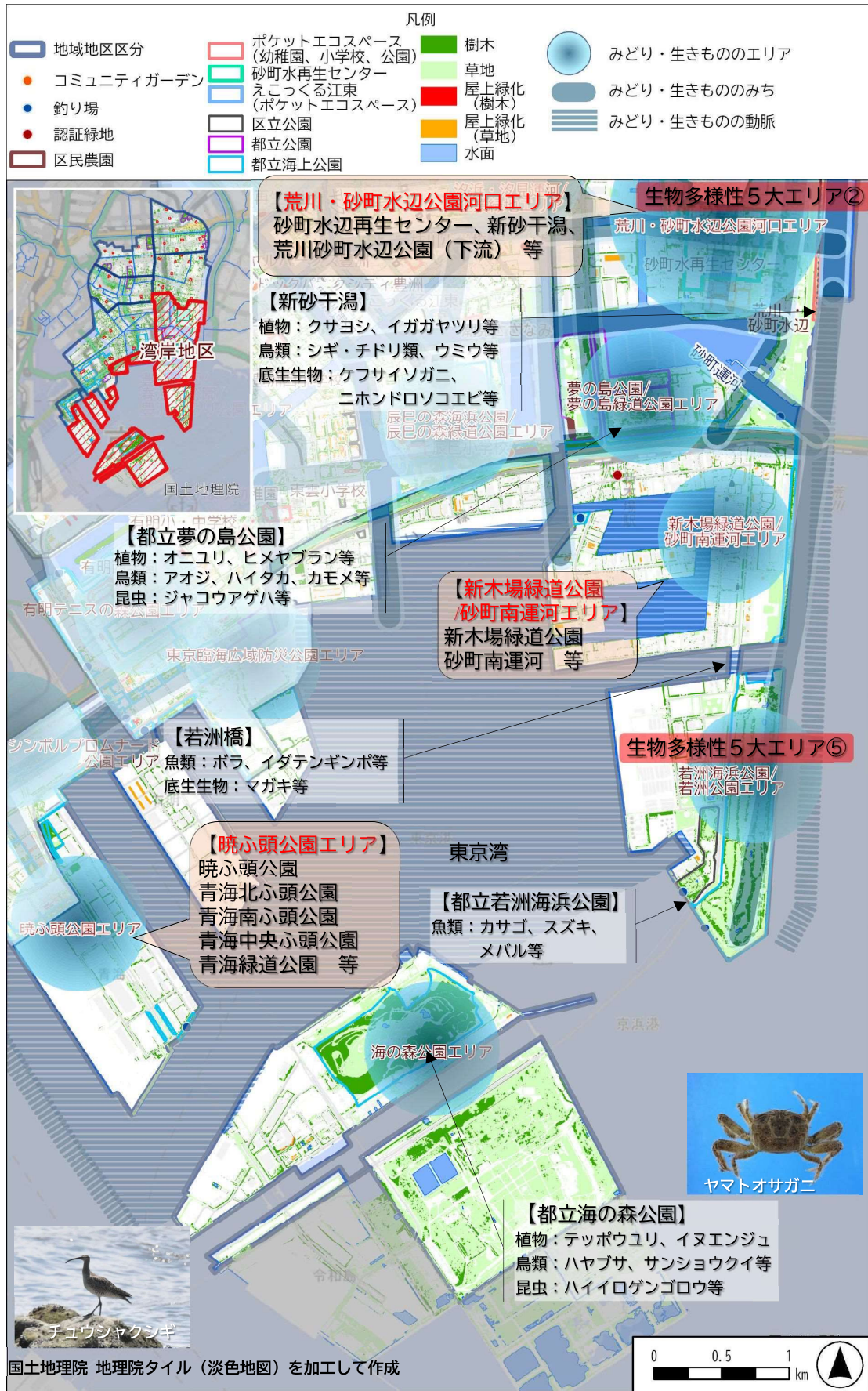


図 3-11 湾岸地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

## コラム 水辺のプレイフルインフラ

水辺のプレイフルインフラとは、こどもが遊びを通じて自ら学び、成長できるように設計された水辺空間のことです。従来のインフラ（社会基盤）整備に「遊び」や「学び」の要素を加え、こどもの視点を重視した水辺づくりの考え方として注目されています。

水辺のプレイフルインフラでは、コンクリートで固められた人工的な水辺ではなく、水際に土が見えていたり植物が生育したりしているような自然的な水辺で生きものと触れ合うことにより、こどもたちの生きる力につながる「課題を解決する力」や「創造する力」を効率的に身につけることに役立つことが示されています。

自然体験ができる水辺をつくり、生きものに対する心や生きていく力を育んでいくことも必要です。



【出典】子どもの水辺研究会「子どもが遊びを通じて自ら学ぶ水辺のプレイフルインフラ」  
(令和4(2022)年6月、技報堂出版株式会社発行)